

令和3年度 富山県衛生研究所 研究成果発表会

1. 日時 令和3年11月12日（金） 14：30～16：40

2. 場所 富山県薬事総合研究開発センター 創薬研究開発センター 2階大会議室
（射水市中太閤山 17-1）

3. 内容

（1）開会・衛生研究所の概要（14：30～14：40）

（2）基調講演（14：40～15：10）

『With コロナ時代をどう生きるか？』

所長 大石 和徳

2020年1月からはじまった国内流行は第5波を数え、感染者の数は時間の経過とともに大きくなりました。県民の対象の65%がワクチン接種を完了し、9月末には急速に感染者が減少しました。しかし、一方では県内でもワクチン接種完了後にブレークスルー感染が起きている。私たちの生活はどうなるのか？今後の展望について考えてみます。

（3）研究成果発表（15：10～16：40）

① 感染症情報センターの取組みと2020年の富山県の感染症発生動向について

研究企画部 研究員 湊山 亜未

富山県感染症情報センターでは、感染症発生動向調査により県内医療機関から保健所・厚生センターを経由して報告された感染症の発生情報を国に報告するとともに、集計・解析結果を県民や医療機関へ情報提供し、感染症の発生予防、まん延防止に寄与しています。今回は、新型コロナウイルス感染症の影響で、例年と大きく異なった2020年の富山県における感染症発生動向を紹介いたします。

② 衛生研究所での新型コロナウイルス研究について ウイルス部 部長 谷 英樹

新型コロナウイルス感染症が発生してから約2年が経とうとしています。ウイルス部では、当初より富山県内の感染者の臨床検体を元に、調査・研究を行っています。遺伝子解析による変異株の流行状況把握や臨床検体からウイルスを分離する実験、また、ワクチン接種後の血中中和抗体調査、といった現在行われている研究内容についてご紹介します。

③ 新しい食中毒菌アルベルティイ菌について 細菌部 副主幹研究員 木全 恵子

アルベルティイ菌は2003年に発表された新種の食中毒起因菌です。国内ではこれまでに10件のアルベルティイ菌食中毒が発生しており、うち5件は患者数が100人を超えています。また、アルベルティイ菌の中には腸管出血性大腸菌と同じ毒素を保有する菌もあります。今回は、富山県内におけるアルベルティイ菌の侵いん状況の調査結果について報告します。

④ アレルギー物質を含む食品の検査 -過去5年間の検査状況について-

化学部 主任研究員 安川 和志

食品表示基準で定められている特定原材料（食物アレルギー物質）は容器包装された加工食品について、それらを含む旨の表示が義務付けられています。食物アレルギー物質を含む食品の検査は、この表示が適切にされていることを確認する検査です。本発表では、検査の概要と本県における検査状況について紹介します。